

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 笑顔の村 三番地	評価実施年月日	平成20年10月1日
評価実施構成員氏名	村井竜二、内海悦子、平野綾子、齊藤綾子、高橋さやか、武田明美、上野洋子、西島鶴代、坂尻道子、内田文子		
記録者氏名	村井 竜二	記録年月日	平成20年10月29日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>これまでの理念を見直し、職員の意見も十分に反映させ、地域での暮らしや、生活を継続出来る様、事業所独自の理念を作りあげている。</p>		<p>地域密着型サービスに変更になった際、事業所独自の理念を作っている。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念に基づいた支援などを常に心掛けており、毎月のミーティングや毎日の申し送りで話し合い実践している。</p>		<p>ミーティングや機会があるごとに全職員で話し合い、取り組んでいる。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には、訪問時や毎月の通信などで伝えている。地域には、運営推進会議や町内の行事など機会あるごとに職員が伝えている。</p>		<p>通信を回覧したり、盆踊りや町内の行事などで、地域に根ざした理念を持ち、それが浸透するような働きかけを行っており、次第に地域に事業所の理念が浸透しているのを感じる。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常的に近隣を散歩したり、買物に出掛け、声をかけて雑談したり、地域の人々と気軽に挨拶している。</p>		<p>ホームで夏祭り等の行事を行い、近隣の方も参加し、交流を深めている。また、町内行事に積極的に参加し、顔なじみが次第に増えている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>開設から五年程になり、町内の盆踊りに参加したり、近隣を散歩したり、買物に出かけた際等、町内の方々と言葉を交わしたりしており、顔なじみも増え、交流が次第に広がっている。</p>		<p>事業所が企画する行事に町内の方に参加して頂いたり、また町内会の総会や行事などに積極的に参加している。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通し、ホームで役に立つ事があれば、積極的に協力したいと言う事を伝えており、相談も増えている。</p>		<p>地域包括支援センターと積極的な情報交換をしており、ミーティング等で常にどんな小さなことでも地域に貢献できることはないか、全職員で話し合っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は、全職員で取り組んでおり、その意義を理解しながら行っている。また、外部評価の結果をミーティング等で話し合い、改善の必要がある場合は、速やかに改善に取り組んでいる。</p>		外部評価の結果を受けて、全職員で検討し、短期、中期、長期の目標としてサービスの向上に繋げている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で頂いた意見をミーティング等で全職員に伝え、話し合い、サービス向上に繋げている。</p>		運営推進会議には、利用者の方にも参加して頂き、意見を出して頂いたりして、サービス向上に繋げている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市で行われている連絡会議に参加しており、また事あるごとに行き来する機会を作っている。</p>		高齢者支援課との連携を密にしており、気楽に相談や現状を報告している。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>成年後見制度を利用している方がおり、ミーティングで話したり、勉強会で学ぶ機会を設けている。</p>		職員はミーティングなどで研修しており、必要があれば、会社として常に対応できる体制がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止マニュアルがあり、虐待やそれに繋がる行為がないか、ミーティングや申し送りなどで常に職員は話し合い、研修をしている。</p>		勉強会に参加する事により、虐待について理解し、防止に努めている。また、常日頃から職員間で日常に虐待に繋がることがないかを全職員が互いに確認し、ミーティングや申し送りで話し合っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約や解約時に、わかりやすく、十分に説明し、不安の無いよう納得したうえで、行っている。</p>		理解、納得したうえで、契約、解約を行っている。また、不安があればいつでも連絡ができるような関係を契約前から作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を気軽に言える様な雰囲気作りを行っている。また、察する取り組みをしている。		玄関に相談箱を設置し、苦情が出た場合、職員全体で話し合い、対応できる体制がある。苦情に対する窓口が運営本部にもある。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月一回は、ご家族にホームの通信を送っている。その際、日々の生活や行事での様子、写真を載せており、お小遣い帳も同封している。また、通信や写真はホームページでも見る事が出来る様にしており、状況に応じ、電話連絡や来訪時にお話している。(ホームページに関しては、個人情報保護により、パスワードを入力しないと閲覧できないようになっている。)		ご家族の中で、遠方に住んでいて、なかなか面会に来る事が出来ない方は特に、通信やホームページは喜ばれている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時等、何でも言ってもらえる様な雰囲気作りに努めている。意見等は、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。		玄関に相談箱を設置したり、こちらからご家族に意見を聞き、ホームの運営に反映させている。また、運営本部にも苦情相談窓口があり、直接連絡することもできる。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションを図る様に努め、職員の意見を聞く機会を作っている。		常に管理者は職員の意見や相談を聞き、ホームの運営に反映させている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来る様に職員と話し合っており、確保している。また柔軟な勤務の調整に努めている。		職員は、柔軟な対応の必要性を理解し、対応している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員9名中6名は2年以上勤務している。新しい職員には十分に引継ぎを行い、利用者の方々には、必ずきちんと紹介をしており、また入ったばかりの職員は、逆に利用者からホームの事を教えて頂いている。		職員の離職を必要最小限に抑える事が出来る様、職員の間関係に気をつけて、働きやすい職場作りを行っている。職員の定着率が良く、退職者が非常に少ない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修に参加しており、ミーティング等で全体に報告している。また、法人内の他事業所に研修に行き来し、学ぶ機会を確保している。</p>		市で行われている研修会、民間で行われている研修会に参加している。また、中堅の職員を育てるために計画的に研修に出席させている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市で行われる管理者会議や研修に積極的に参加している。また、気軽に電話や連絡を取り合える関係を作っている。</p>		他の同業者が気楽にホームを訪れる事も多く、交流は次第に広がっている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士の人間関係を把握しており、日常的にホームに来て、職員一人一人に声を掛け、また、親睦の場を設け、ストレスや悩み等を聞く体制がある。</p>		運営者が取り組んでいるが、管理者からも運営者に状況を常に伝えており、共に取り組んでいる。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は日常的にホームに来て、職員一人一人に声を掛け、職員の努力や勤務状況を把握しており、時給を上げたり、役職を就け、手当を支給している。</p>		管理者から運営者に職員の状況を伝え、各自が向上心を持って働ける様に取り組んでいる。中堅職員の育成に力を入れており、計画的に研修に出したり組織全体で取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に本人と面談し、要望や不安等を聞く機会を設けており、安心して暮らせる様に努めている。</p>		入居前には必ず面談の機会を設け、安心してホームで生活出来る様に努めている。また、計画作成担当者も同行し、安心してホームで生活出来る様に努めている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ホームの見学を兼ねて、お会いし、要望や不安等を聞く機会を設けている。</p>		面談の際には、計画作成担当者と共に、ご家族の話を傾聴し、安心して共に支えていく事が出来る様に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っています、また早急に対応が必要であれば可能な限り、他のサービス事業者と連携を取り対応しています。		相談受付簿があり、状況に応じ、他のサービスの利用も含め対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の前に見学をして頂き、ホームの雰囲気を知って頂く等の取り組みをしている。		ご家族と相談し、徐々に馴染める様に努めている。また、職員と本人がゆっくりと接する時間を設けており、場の雰囲気に早くなじめるように工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事を作る際に味付けや調理法を教えている。また、洗濯物をたたんでいる際に、他の利用者や職員の衣服のボタンが取れそうになっていたり、すそがほつれていたら、自ら補修して下さい、支えあう関係は築かれている。		調理法を教えて頂いたり、野菜の育て方を教えて頂いたりしている。また、小さい子供がいるスタッフは、子育ての方法を教えて頂いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	変化があればご家族にすぐに連絡したり、利用者の状況を小まめに伝えたりしている。また、行事と一緒に参加して頂いており、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		いちご狩りやお花見などの行事に参加され、一緒に楽しんで頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事には、利用者、ご家族一緒に参加して頂ける様に努めており、日々の様子等を通信と一緒にお手紙を入れ、より良い関係が築ける様に支援している。		月日が経つにつれ、面会の頻度が増えたり、面会時間が増えたケースがある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの方がホームに来て下さり、昔の話や談笑されたりしている。その他に、電話をしたり、手紙を書いたりしている。		馴染みの方と自由に電話をしたり、手紙を出されている。また、地方から面会に来られた方が利用者の居室に泊まったりと、関係が途切れないよう、務めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性を職員は把握しており、一人一人に役割を持って頂き、関わり合いできる様にしている。また、職員は利用者同士の関係について情報を共有し調整役となっている。		職員が橋渡し役になり、支え合えるようになっている。洗濯物をたたんでいる際に、他の利用者の衣服のボタンが取れそうになっていたり、すそがほつれていたら、自ら補修して下さっている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了した後も電話をしたり、気軽にホームに遊びに来て頂ける様にしており、契約終了後もご家族が遊びに来られ近況をお話しされたりすることもある。		病院へ入院となった方には利用者全員と作ったお見舞いの品を持参したり、職員が面会に行ったりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、日々の様子を観察し本人本位に検討している。		常に一人一人に合った暮らし方を支援している。また、職員は利用者本位に立った思いや意向を把握し、書道の先生に来て頂いたり、生け花教室に参加している。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族からお話を聞き、プライバシーに配慮しながら、把握に努めている。		日々の生活の会話の中から、ヒントを得たりした際、職員全体で共有している。また、利用後からもご家族や本人から今までの暮らしを聞いたりしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活を観察し、異変があれば、介護記録、生活記録、また申し送り等で全職員が把握している。		全職員が把握しており、異変があれば、状況に応じ検討、対応している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の関わり合いから、本人、ご家族の意見、意向を聞き、職員全体でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、3ヶ月ごとに作成している。		介護支援専門員の管理のもと、本人、ご家族の意見などを反映した介護計画を作成している。全職員が携わることで様々なアイデアが出てきて介護計画にも良い意味での反映が非常に大きい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人、ご家族の意向を取り入れ、見直しを行っている。期間が終了する前に変化が生じた場合、速やかに介護計画の見直しを行うが職員全体で検討し、新たな計画を作成している。		現状に見合った介護計画を介護支援専門員の管理のもと作成している。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルを用意し、事業所独自の介護記録に、日々の暮らしや変化をわかりやすく記録している。業務日誌や申し送り等で情報を共有している。		事業所独自の介護記録を使用している。ケアプランのチェック項目があり、見直しに役立っている。また、申し送りノートを利用し、情報の共有に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関や市内の各機関などと連携しており、必要に応じて柔軟に対応できる体制は会社全体を通じて整っている。		受診の際、ご家族が付き添う事が出来ない場合、職員が通院介助している。その他にも希望に応じて柔軟に支援できる体制を整えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防、地域の民生委員に事あるごとに出向き、事業内容等を説明して、パンフレットを配って協力関係を作っており、利用者が快適に安心して暮らせる様にしている。		ボランティアを受け入れ、三味線や尺八の演奏、手品を披露して頂いている。また、利用者の要望があり、書道教室を開いている方にボランティアで、書道を教えて頂いている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性に応じ、訪問理容サービス、訪問歯科、介護タクシーを利用している。		本人の意向や必要性に応じ、柔軟に支援している。また、対応できる体制が整っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議をきっかけに地域包括支援センターと連携が出来ており、周辺の情報や他事業所の情報を得る事が出来、運営に生かしている。		地域包括支援センターとの密な連携により、利用者が望む事を気軽に相談や助言をもらえる様な体制が整っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	一階が協力医療機関であり、二週間に一回の訪問診療の他にも、電話で相談したりしている。また、ご家族の希望があれば、医師からの病状の説明等をして頂き、良い関係を築いている。		協力医療機関が一階にあるので、気軽に相談したり、急変時は、すぐ受診に行ったり、往診して頂いている。また、24時間往診可能な病院から必要に応じ、医師や看護師が来る体制を整えている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師が認知症に詳しく、連携体制がとれており、指示や助言を頂いている。		気軽に電話連絡が取れる体制を作っており、少しでも様子が違っている場合でも、相談し、助言を頂いている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	一階の協力医療機関内に勤務している看護師と連携が取れており、気軽に相談している。		協力医療機関が一階にあるので、利用者の顔を見に来たり、お茶を飲みに来たりしている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連携を密にし、出来るだけ早期退院出来る様に努めている。		ホームでの生活等を詳細に記した提供書を渡したり、情報交換し、安心して過ごせる様に努めている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合、かかりつけ医、ご家族、職員の話し合いの場を設け、慎重かつ適切に対応している。		かかりつけ医から終末期の利用者の病状、今後の方針等を説明して頂き、ご家族、職員で共有した。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関と連携をし、チームとしての支援が出来る様にしている。		終末期の利用者が日々をより良く暮らせる様に、検討や準備をチームとして行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の居宅へ移り住む際、十分に話し合い、日々の生活状況等の情報を交換しており、ダメージを防ぐ様努めている。		事前に住み替えによるダメージを防ぐ様、移り住む側の職員、計画作成担当者と綿密に情報交換している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーを損なわない様、全職員が徹底して対応している。		ミーティング等で全職員で話し合い、徹底している。居室の入り口は、カーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活、行事等、利用者が自己決定しながら生活出来る様に支援している。		献立に利用者の要望を取り入れたり、行事等で、欲しい物を選んで頂いたり、食べたい物を選んで頂いている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースで主体的に過ごして頂いている。		居室内で仲の良い利用者同士で談笑したり、リビングでテレビを見たり、おのおの自由に過ごされている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出時等、化粧をしたり、おしゃれをしたりしている。また、近隣の美容室に行き、髪を染めたり、パーマをかけたりする方もいる。		化粧品や化粧水等が無くなれば、一緒に買いに行き、身だしなみを大切にして頂いている。また、買い物ツアーを企画し、本人が好む服やズボンを買って頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者それぞれに食べたい物を聞き、一緒に献立を決め、買物に行き、調理している。		一緒に献立を決めて、調理や後片付けをして頂いている。肉類が食べられない方には、別のものを調理している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこを吸われる方は、見守りをし、火の始末に十分に注意し、他の利用者に迷惑のかからない様配慮している。		タバコを吸われる方は、他の利用者の迷惑にならないように、換気扇の下で吸って頂いている。タバコの火はきちんと消えているか、職員が十分に確認している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握しており、さりげなく声を掛け、気持ちよく排泄できる様支援している。		出来るだけオムツを使用しない様、それぞれの排泄パターンに応じた声掛けをし、トイレに誘っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴したい日や時間、好みの温度に設定し、支援している。		温泉が好きの方が多いため、日帰り温泉ツアーを計画している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムを把握し、状況に応じて睡眠や休息できる様支援している。		利用者の状態に応じ、日中に適度な運動や散歩等をして、夜間安眠出来る様に支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の得意な事や自主的に行っている事を役割として持って頂いている。		役割として行っている事をして頂いた際、感謝の気持ちを伝えており、またやろうという意欲を引き出す支援をしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額のお金を管理して頂いている。自分で支払いをする行事を行っている。		行事として、買物ツアーを行い、欲しい物を選んで頂き、支払いも本人にして頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調や意思を考慮し、日常的に散歩や買物に出掛けている。出来るだけ戸外に出掛けられる様支援している。		いつでも戸外へ出たい希望があれば、職員がついて散歩などを行っている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者との会話の中で、温泉に行きたいという方が多く、一泊温泉旅行を計画、実行するなど、機会を作り、支援をしている。		日帰り温泉ツアーを計画して行きたい。誕生日には、ホームでのお祝いの他、食べたい物を聞き、個別に外出に行き、お祝をしている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたいという希望があれば、プライバシーに配慮し、自室で出来る様、コードレスフォンにしている。また、毎年の年賀状は、利用者それぞれに書いて頂いている。		自由に電話したり、手紙を出されている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限は無く、仕事の合間などに、自由にご家族や知人が訪問され、談笑したり、お茶を飲んだりしている。		気軽に訪問され、家族と近隣を散歩したり、昼食を食べに行ったりしている。また、地方から面会に来られた方が気軽に利用者の居室に泊まったり、大変喜ばれている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルがあり、ミーティング等で拘束の無いケアをする様に研修をしている。		身体拘束に関する研修に参加し、全職員が身体拘束の無いケアに取り組んでいる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけなくて済む様に、職員は利用者の行動を把握している。		ドアに鈴を付けてあり、開閉時に鈴が鳴る様にしてある。また、外出の希望があれば、いつでも職員がついて行く体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はリビングで過ごされる方が多く、自室で過ごされている方は、時間ごとに見回りし、様子を把握している。夜間も同様に、時間ごとに見回りしている。		監視されていると思われない様に、職員は常にさりげなく所在や様子を把握している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤など危険なものや危険と思われるものは、鍵のかかる場所に保管してある。		利用者が刃物など、危険と思われる物を所持している場合、本人に説明し、職員が保管、管理し、使う事があれば、見守りしている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々の生活の中で、事故につながる恐れがある事を発見した場合、職員全体で検討し、事故防止に努めている。		事故防止委員を設置しており、全職員が事故を未然に防ぐ様務めている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の研修会に参加しており、一階の協力医療機関と連携し、助言を頂いている。		消防署が主催の訓練を定期的に行っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議などで、災害時に協力して頂ける様に働きかけており、消防署協力の元で避難訓練、防災訓練などを行っている。		定期的に避難訓練を行い、また、運営推進会議や町内会の行事や会議などを通して、地域の方に理解を求め協力してもらえる体制を整えている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況の変化に応じ、ご家族の訪問時や電話連絡し、起こり得るリスクを説明し、対応策を話し合っている。		職員全体でリスクに対応出来る様に、検討、対応している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックをしており、顔色、体調の変化があった場合、記録に残し、情報を共有している。		体調に異変を発見した場合、すぐに管理者に報告し、状況に応じ、協力医療機関に報告、指示を受けている。また、24時間往診可能な病院から必要に応じ、医師や看護師が来る体制を整えている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人一人の内服している薬がわかる様にファイルしており、職員全体で把握している。服薬時は必ず見守りし確認している。		服薬し、症状に変化がある場合、ただちに協力医療機関に報告している。また、薬について医師、看護師や薬剤師にすぐに相談できる体制が整っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ラジオ体操や毎日牛乳を飲んで頂いている。午後からは、散歩に行ったり、ホーム内で運動している。		食事は、食物繊維を多く摂る様に献立に留意している。また、ラジオ体操や体を動かすことを日課としている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	市で行われる口腔ケアの勉強会に参加し、必要性を理解し支援している。一人一人に合った口腔ケアを支援している。		就寝前は、歯茎を休ませる様伝え、義歯を外して頂いており、義歯消毒している。また、必要に応じ、訪問歯科に依頼できる体制が整っている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量をチェック表に記録しており、全職員が情報を共有している。また、必要に応じて随時、医師や看護師に気軽に相談や助言をもらえる様な体制が整っている。		毎月体重測定を行っており、体調の管理に役立てている。また、好みの飲み物など習慣に応じた支援をしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、全職員がそれに基づいた対応をしている。		利用者、スタッフ共に、毎年、インフルエンザ予防接種をおこなっている。ホームに入る際は、玄関にある消毒薬を使用し、うがい、手洗いを徹底している。まな板、ふきん等の消毒も毎日行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルがあり、全職員がそれに基づいた対応をしている。		食材は、長期保存しない様に、使い切るだけを買って、在庫等を管理している。また、まな板、ふきん等の消毒も毎日行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の入り口に手作りの看板を設置したり、花のプランターを置いたりしている。		クリスマスの際は、玄関や階段に、飾りやネオンを付けたりしており、近所でも評判である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が書いた書道を展示したり、季節に応じたお花をテーブルに飾っている。		廊下には、行事の写真を貼っており、その時々エピソードや思い出を話される事がある。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベランダにテーブルとイスを置いたり、奥の廊下にイスを置くなどしており、気の合った利用者が談笑している姿もみられる。		ベランダで談笑しながら昼食を食べたり、花や野菜を植えており、毎日水やりをしている。収穫時期になると、利用者、スタッフで食べている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し、今まで使っていた物を持って来て頂いており、その人らしい居室になっている。		仏壇を持って来ている方がおり、毎日水をかえている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行っており、ゴミ等はホーム内に置きっぱなしにせず、直ちに外に設置してある、ゴミ箱に入れている。		体調を維持する為にも、換気をこまめに行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	常に利用者の状況に応じて、手すりを設置しており、必要に応じて増設したりと、自立した生活を送れる様、工夫している。		ホーム内に段差があるが、逆にそれが生活リハビリになっており、今までそれが原因で大きな事故になった事は無い。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	状況に応じ環境整備を行い、混乱や失敗が起きないように環境づくりに努めており、職員も自立して過ごすことができるように支援している。		混乱や失敗しないように、定期的に環境整備を行っている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに花や野菜を植えており、毎日水やりをしている。収穫時期になると、利用者、スタッフで食べている。		ベランダや近くの公園で日光浴をしたり、お茶を飲んだりしている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> 毎日ある ② <input type="radio"/> 数日に1回程度ある ③ <input type="radio"/> たまにある ④ <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 ② <input type="radio"/> 家族の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 家族の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように ② <input type="radio"/> 数日に1回程度 ③ <input type="radio"/> たまに ④ <input type="radio"/> ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①●大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①●ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①●ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①●ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)